

保護者の皆様へ

～ 美馬中学校教育についてのアンケート（前期・後期）結果から ～

美馬中学校

今年度、生徒と保護者の皆様を対象に実施した「美馬中学校教育についてのアンケート」の結果をまとめましたので、お知らせします。なお、アンケートの詳しい結果（データグラフ）につきましては、学校ホームページに掲載しておりますので、ご覧ください。

「学校生活の充実」

生徒の「学校へ行くのが楽しい」、保護者の「学校は、子どもにとって楽しみなところである」の問いでは前・後期とも、約90%の肯定的な回答があった。しかし、「そう思わない」と感じている生徒もおり、その背景の把握に努めるとともに、今後さらに、一人一人の生徒が輝く場をつくるなど、学校生活の充実に取り組んでいきたい。

「確かな学力の育成」

「わかる授業」の実践については、生徒・保護者共に、前・後期とも80%以上の肯定的回答があった。今年度は、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、県教委・鳴教大と連携して授業改善研修に取り組むとともに、本校教員が相互に授業公開を行い授業改善に努めてきた。今後も継続して授業力向上に取り組んでいきたい。一方、「家庭学習の工夫・充実」については、生徒・保護者の肯定的回答が前・後期とも70%台であり、今後も「家庭学習の友」を有効に活用して、生徒が計画的かつ自主的に家庭学習に取り組む体制づくりを継続するとともに、課題の内容を工夫改善し、家庭学習習慣の定着を図っていきたい。

「豊かな心の育成」

生徒の「命の尊さや人権の大切さを学ぶ機会がよくある」、保護者の「学校は道徳や人権教育を積極的に行っている」の問いで、共に前・後期とも90%以上の肯定的回答があった。今年度は、講演会や体験的学習を通して、思いやりの心を育て、人権意識を高める機会を積極的に設けた。「あいさつやきまりを守るなどの基本的生活習慣」についても、前・後期とも90%以上の肯定的回答があった。中学生の元気のよしさややかなあいさつは、小学生にも広がってきている。来年度からは、「道徳」が「特別の教科 道徳」としてスタートする。そこで、教員が道徳科の円滑な実施に向けて研修を行うとともに、学校全体で、生徒たちが人間としてよりよく生きるための基盤となる道徳性の育成に努めていきたい。

「健やかな体」

「健康や体力づくり」については、生徒・保護者共に、前・後期とも約80%の肯定的回答があった。部活動や体育の授業、保健指導などで、体力づくりを行ったりや健康について考えたりする機会を設けている。「健康診断」の結果によると、本校の生徒は、身長は全国平均並みだが、体重は全学年の女子で全国平均より重い傾向にあり、肥満傾向も高い。また、体力テスト種目の結果は、学年によってばらつきがある。運動をする環境づくりや生活習慣の乱れに対する指導を充実させたい。

「進路指導・キャリア教育」

「社会の一員として生き抜く力の育成 ～社会力、人間力の育成～」を目標に、校外から様々な分野の講師を招いて「体験学習」を実施するとともに、「キャリアノート」を活用してキャリア教育の充実に取り組んだ。「進路について考える、家庭で話し合う」の問いに対しては、3年生では、「そう思う」の回答率が高いが、2年生、1年生と学年が下がるに従って低くなる傾向がある。そこで、3年間で各段階ごとに計画的に進路指導やキャリア教育を推し進めていきたい。

「安全教育」

生徒の「災害が起こった時どうしたらよいか教えてもらっている」、保護者の「学校は、安全指導に努力している」の問いで、前・後期とも約90%の肯定的回答があった。今年度は、小中合同の防災訓練を実施した後、小中合同で防災学習を行った。今後は、認定こども園や地域と連携した防災訓練の実施や、防災教育の充実により、生徒たちに自助・共助の精神と行動力を身に付けさせたい。

「様々な教育活動」

「学校行事」に対しては、生徒・保護者共に、約90%が肯定的な回答であった。生徒の「体験活動を通して学んでいる」や、「部活動に積極的に参加している」の問いでは、共に多くの生徒が肯定的な回答をしており、積極的に学校生活を送っている生徒が多いことがわかる。部活動では、本年度策定した「部活動活動方針」に基づいて、適正かつ充実した部活動運営に取り組んでいきたい。生徒の「生徒会活動等への参加」に対しては、後期では約30%が否定的な回答をしている。来年度は、生徒が主体的に取り組み、互いに高めあえる生徒会活動を考えていきたい。

「生徒指導」

生徒・保護者共に、「いじめや悩み事などによく対応してくれる」に対して、前・後期とも80%以上の肯定的な回答があった。「生活に関するアンケート」を定期的に行い、学年団、生徒指導主事、管理職員で共有し、組織的に対応した。近年、SNSの使用によるトラブルが多く発生しており、アンケートに記述された内容から発見して、相談や指導にあたることが増えてきている。今後も、「生活に関するアンケート」や「教育相談」、「前進」などを通して、生徒理解に努め、生徒の小さなサインを見逃さず、いじめや問題行動の早期発見、早期対応をしていきたい。一方、生徒の「悩みや心配なことを相談できる先生がいる」の問いでは、「そう思わない」、「あまり思わない」との回答が、後期では約30%あった。今後、生徒が相談しやすい体制づくりを心掛けていきたい。

「環境整備」

生徒・保護者共に、前・後期とも90%以上の肯定的回答があった。両膝を床について丁寧にぞうきんがけをするなど、生徒たちの地道な清掃への取組や、季節ごとの花づくりにより、学校の環境美化に努めることができた。今後も小学校と連携して美しい学校環境をつくっていききたい。

「地域・保護者との連携」

保護者の「ホームページ等の情報提供」では、前・後期とも85%以上の肯定的回答があり、多くの方に学校ホームページを閲覧していただいているようである。一方、「PTA活動など家庭と学校との協力関係ができています」では、前・後期とも保護者の80%以上が肯定的回答だったが、否定的な回答もあった。今後さらに、学校からの情報発信に努めるとともに、地域住民・保護者との「顔の見える関係」を大切にしていきたい。

「職員研修」

今年度は、徳島県教育委員会から「授業改善推進校事業」の指定を受け、ノ一部活デーを活用して、小中合同の授業力向上研修の開催した。また、テレビ会議システムを利用して、鳴教大の教授等から研修を受けられるサテライト研修システムで、生徒指導の校内研修を行った。次年度も、教員同士が互いに学びあい高めあうOJTを積極的に行うなど、教師の資質向上と指導力向上を目標とした研修を積極的に行っていきたい。

「特別支援教育」

合理的配慮を心がけるとともに、生徒たちへの理解を深める取組を行った。来年度は、学級が新設されることになるため、環境整備や支援体制を整えるとともに、職員への研修も積極的に行っていきたい。

～ 今後の取組について ～

今年度のアンケート結果を踏まえて改善を図り、一人一人の生徒たちの生きる力を育成するため、全教職員が力を合わせてより充実した教育活動の実践に努めてまいりますので、今後ともご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。